あ・と・が・き

★日高の軽種馬育成調教場は、夏恒例となってきました開場時間を 1 時間早めるサマータイムを 7 月と 8 月の 2 ヵ月間実施しました。また、1,600m 直線砂馬場の路盤改修工事が 7 月から始まり、年内は利用できなくなりました。利用者の方々には大変ご不便をおかけしますが、常に、皆様方に万全な状態で馬場を利用していただけるように努めておりますので、ご理解のほどよろしくお願いします。

★当センター育成調教技術者養成研修生は、7 月から 9 月にかけ、町民乗馬大会・浦河競馬祭・札幌競馬開催見学・民間牧場での牧場実習・JRA 育成馬での馴致実習等、日常の研修日課では得られない貴重な体験を積んで、研修の中間点まで到達しました。また、研修内容を直に感じてもらうため、体験入学会を 3 回実施するとともに、各種広報活動にも努めております。次期研修生（第 31 期）の応募の締め切りが 10 月 19 日と迫ってきました、多数の応募をお待ちしております。

(Y.H.)

★今夏のロンドンのオリンピック開催では、わが国で史上最多のメダル獲得という偉業に大いに盛り上がり、東京銀座では大勢のメダリストたちの凱旋パレードを一目見ようと、沿道には 50 万人もの人の波が押し寄せ、歓迎一色に包まれました。「たづな」欄には JRA 競走馬総合研究所長の安斉了氏に「備えあれば憂いなし」というタイトルで、馬防疫の重要性を執筆していただきました。安定した競馬の開催に防疫対策は不可欠です。

★「科学の箱馬車」では、「ミオスタチンと競走馬の距離適性」について競走馬理化学研究所の戸崎晃明氏に解説していただきました。昔から言われていた定説、短距離系の馬は筋骨隆々とした大型馬で、中距離系はスラットした馬であるという裏付けが筋肉の DNA からも証明された解説でした。「調査・研究」では、「生産地における新たな細菌感染症の危惧」について JRA 総研栃木支所の丹羽秀明氏に執筆していただきました。日常の馬の健康管理に役立ててもらえば幸いです。

★「海外の馬最新情報」では、「馬の再発性疝痛」について紹介しましたので、臨床診断や治療に活用していただければと思います。「馬にみられる病気」シリーズ執筆者の吉原豊彦は、5 年半の長きにわたり本誌の編集に携わってこられましたが、9 月末で退職されました。長い間ありがとうございました。なお、本シリーズは引き続き掲載される予定です。今号から藤井良和が編集を担当することになりましたので、今後ともよろしくお願いいたします。

(Y.F.)